

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

13. 筋骨格・結合組織の疾患

文献

前島貞裕, 片山容一. 脊椎・脊髄疾患 1. 頸部脊椎管狭小化病変に対する術後の漢方療法. 漢方と最新治療 2004; 13: 232-6. 医中誌 Web ID: 2004301321

1. 目的

頸部脊柱管狭小化病変の術後残存症状に対する八味地黄丸、牛車腎気丸、修治附子末の有効性の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

1 大学病院

4. 参加者

外科治療を施行された頸部脊柱管狭小化病変患者で術後に症状が残存した 24 名

5. 介入

Arm 1: 八味地黄丸を 2 ヶ月間投与

Arm 2: 牛車腎気丸を 2 ヶ月間投与

Arm 3: 牛車腎気丸+修治附子末 1.0g を 2 ヶ月間投与

各群とも手術効果に差はなく、術後 2 ヶ月目より投与を開始した。

原著に詳細の記載なし。

6. 主なアウトカム評価項目

自覚症状 (Pain・Paresthesia) : VAS (Visual analogue scale)

7. 主な結果

Pain に関しては VAS による改善率は八味地黄丸 24.8%、牛車腎気丸 37.1%、牛車腎気丸+修治附子末 45.5% であった。八味地黄丸と牛車腎気丸+修治附子末では後者が有意に優れていた。Paresthesia に関する改善率はそれぞれ 21.4%、24.2%、28.5% で各群間に差はなかった。

8. 結論

腰椎疾患術後残存症状に対して八味地黄丸、牛車腎気丸、牛車腎気丸+修治附子末は有効で修治附子末投与群の方が有効性が高い。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

両群共に副作用は認めず脱落例も認めなかった。(結果省略につき件数不明)。

11. Abstractor のコメント

腰椎疾患術後残存症状に対して漢方薬が治療法の一つであることを示した論文である。著者らは附子の用量が多い方が効果が高いことからメカニズムとして附子の Opioid Receptor に対する作用を推測している。

12. Abstractor and date

小暮敏明 2007.6.15, 2008.4.1, 2010.6.1